

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社理念・ホームビジョンを職員間で共有し、朝礼会議を通して、実践出来る様に具体的支援の話をしている。	理念、ユニット目標を掲示すると共に、朝礼時や研修時に確認し、実践につなげています。スタッフルームには利用者個々の個性や留意点を見える形で示し、日々の具体的な支援から理念の実践に取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域交流の場を心掛けている。ホーム活動は地区回覧にて周知出来る様に活動している。	地域自治会に加入し、回覧板でそれぞれの行事のお知らせをしています。ホーム開催のフリーマーケットや運動会等には、ボランティアや実習を受け入れた学生、先生も参加しました。小学校の音楽会に招待され、行って楽しむこともできました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域交流の場を心掛けている。ホーム活動は地区回覧にて周知出来る様に活動している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	近年はコロナ感染症予防の為、書面開催で行っていた。対面での開催は、令和6年9月に行った。	諏訪広域連合職員、区長、市の相談員、家族、地域住民がメンバーとなって定期的に開催し、ホームの状況や近況報告をしています。感染症予防の為、その時の感染状況に合わせて集合開催が書面開催を決めています。集合開催した際、区長から、区の回覧を回すこと、区の避難訓練、夏祭り等に声をかけることの提案をいただきました。	ホームでの開催が難しい時期は会場を変更するなど、工夫しながら集合開催し、活発な意見交換ができることを期待します。また、防災訓練の時期には消防署の方や、フリーマーケットの時期にはボランティアの方に出席の依頼をして情報共有するのも良いかと思えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	連携に努め、市町村関係者から助言を頂いている。今後も協力関係の継続を行う。	市担当者とは助言をいただいたり、相談できる関係を築いています。定期的に来訪される相談員を通して、ホームの状況を把握してもらって、市主催の会議への出席、市の依頼による「認知症サポーター講座」の講師など連携に努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	学習会にて職員が認識を持ち、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	年2回の会社としての研修の他、ホームでも研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。3ヶ月に1回、身体拘束・虐待につながる「不適切ケア」のチェックを行い、気になることはリーダーとケアを考えたり、職員同士声をかけ合い、適切なケアの実践を意識しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修を行い、虐待防止の認識を持ち仕事に従事している。管理者は日々の観察と防止策に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	会議の場を利用して、職員の知識向上に努めている。必要に応じて関係者と話し合いの場を持って、支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際、ご入居者やご家族が理解できるよう充分な時間を取り、説明をして不安や疑問に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族アンケートの実施やご意見箱の設置をして、意見要望に応えられるように努めている。運営推進会議で結果の周知も行っている。	年1回家族アンケートを実施し、意見を聞き取っています。結果は玄関に表示し、運営推進会議で報告しています。家族から「外に出かけて欲しい」と意見があり、買い物に出かける計画をした例があります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議や面談の機会を設けたり、職員アンケートから出された意見に対するの対応を周知している。職員の意見は積極的に反映出来るよう努めている。	リーダー、ホーム長と面談し、意見や思いを聞く機会を設けたり、職員アンケートを実施し、結果を表示して反映に努めています。キャリアパス制度によって「目指したい自分」を応援する体制もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	昇給、昇格が出来る体制を整え、職員がやりがいや向上心を持って仕事出来る環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外での研修に、積極的に参加できるようにしている。職員の力量を把握した研修を行っている。研修後は会議の場を利用して他職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ感染拡大の為、相互訪問、交流の場は減った。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の様子や発言する言葉に耳を傾け、安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族からの意見・要望を参考にしてケアプランを作成し、面会時やお便りにて都度報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人の近況状況、又は変化時には必ず家族へ連絡し、必要とする支援についてご家族と話し合い、対応に当たっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご入居者一人ひとりを尊重し、家族の一員としての関係作りに努めている。家事仕事、趣味等を通じて入居者同志の関わりが持てるよう支援している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の思いを考慮し、気軽に訪問でき、ご本人との絆が持てる環境づくりを心掛けている。ご入居者の様子を周知しながら良い関係を作り、共に入居者を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の訴えやご家族様からの情報を大事にして、馴染みの人や場所の提供に積極的に努めている。	入居前から教会に通っていて入居後も続け、行く事が難しい状態になってからは教会から来てもらった方や、馴染みのお菓子屋さんに行く方、行きつけの美容院に行く方など、それぞれの馴染みの関係を続けられるように、家族の協力を得ながら支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者が孤立しないよう入居者同志の関わりが持てる、配慮支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了においても継続して、ご家族の相談に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者、ご家族の意向を聞き希望に沿えるよう努めている。	本人、家族の希望に沿えるよう話を聞く時間を大切にしています。フリーマーケットの際は、利用者が作成した作品に自分で値段を付けて販売したり、全体の売上金でお酒やうなぎなど好きな物を買ひ、希望に沿った暮らしの実践に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や慣れ親しんだ生活の継続が出来るよう、職員は経過の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員の日々の観察の中から、入居者個々の心身状況や暮らしの中での気づきについて、職員間で共有し把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	関係者会議の開催にて現状把握を行い、課題を見つけ介護計画の作成をしている。家族の協力も必要に応じて得ている。	介護計画の見直し時には全員の職員がモニタリングを行い、ユニット会議で共有・検討し、本人の生活に即した介護計画を作成しています。会議には家族にも声をかけますが、参加が難しく、電話で意向を聞く事が多い状況です。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録を生かしながら職員間で情報を共有し、変化があれば介護計画に生かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々的重要情報を常に把握し、ご本人や家族の希望される事に応えられるようにしている。外部のサービスも積極的に取り入れている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご入居者に生活の広がりを持って貰う為、地域との関わりを大切にしている。地域の方々が気軽に立ち寄れるよう、行事へお誘いをしている。			

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医との連携に努め、心身の変化時には気軽に相談できるような関係を築き、ご入居者の健康維持が出来るよう努めている。	入居前のかかりつけ医を継続している方もいます。協力医による月1回の訪問診療と、訪問看護師による週1回の健康管理の他、その都度相談をしています。深夜でも対応してもらえる協力医もいます。歯科も協力医による訪問診療が受けられます。受診は家族付き添いですが、相談で職員が対応することもあります。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問時に1週間の心身状況を伝え、適切な看護や指示が受けられるよう密に情報交換を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や医療関係者との関係を大切にして、情報交換の場に参加し、入居者の対応について両者間の連携を取っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	状態の変化について、ご家族との面会時に報告をしている。関係者とも情報共有しながら対応をしている。	終末期ケアについては家族の希望があれば、医師等関係者と連携し、看取りケアの対応をしています。医師より看取りと診断された時点で、その方の看取りについて研修を行い、考えられるリスクや対応、連絡体制、手順を確認し、職員の不安解消につなげています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修の場を設け、定期的にマニュアルに沿った訓練を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練にて様々な想定での訓練をしている。近隣住民に参加協力をしていただいている。	年2回訓練を実施しています。避難誘導、通報、さまざまな場を想定した訓練や、毎年救命救急講習を受け、実際に起きた時、職員一人ひとりがまず何をしたらよいかシミュレーションをし、災害対策の意識につなげています。利用者も外での消火訓練に参加しました。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々を尊重し、プライバシーを守り、言葉かけや対応に配慮した支援を行っている。	採用時に必須研修として基本を伝え、その方やその場の状況に合わせた声かけ、対応をして人格の尊重に配慮しています。「スピーチロック(言葉の拘束)を使わないケアの工夫を意識して声かけをしています」「気になった時は職員間で指摘し言い合えます」「職員ヒアリングより)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者が気軽に、思いや自己決定出来るよう、コミュニケーションが取れる環境作りに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の押しつけをする事無く、ご入居者の思いに沿った生活が出来るよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者の希望に合わせた身だしなみやおしゃれが出来るように支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事作り・盛り付け・片付け等と一緒にしている。季節に合わせた食事を取り入れたり、自然を味わう為に、春や秋にホーム庭にて昼食する等、楽しみが持てるよう工夫している。	感染症の状況に合わせて、できる時は、利用者が一緒に食材の買い物に行ったり、下ごしらえや調理、盛り付けや食器洗い・拭き、できる事を一緒にしています。希望で鍋や寿司(取り寄せたり、回転寿司に出かけたり)、また、桜餅やおはぎ、焼き芋等、季節を感じられるような工夫をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量は個々に合わせて提供している。禁止食は代用品を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご入居者への声掛けし、力を引き出しながら、毎食の口腔ケアを行っている。入れ歯洗浄剤は週2~3回行っている。			

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄記録を活用し、排泄パターンを知り、排泄の自立に向けて、自尊心に配慮しながら、声掛けや誘導を行っている。	個々の排泄パターンを把握して支援しています。1名以外トイレにて排泄していますが、声かけのみの方、誘導して見守る方、介助の方、状態に合わせた自立支援を心がけています。また、声のかけ方も工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の排便状況を把握し、自然排便を促す為に、牛乳や乳酸菌を摂って頂いたり、運動の場を提供している。便秘気味の方は、医師に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入居者の希望に沿えるように努めている。	機器は個浴のみなので、全介助の1名は職員2名で介助しています。「夜入りたい」「朝入りたい」と希望がある時は、ユニット内の安全を確認した上で対応しています。利用者同士2名で一緒に入る方もいます。拒否が強く対応者が限られる方は、外部者、家族の協力を得ています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの睡眠パターンを理解し、安眠できるような生活のリズムと環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬説明文書をファイルにまとめて有り、スタッフが理解できるよう、いつでも見られるようにしている。症状の変化時についての対応も、日常的に共有されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴を理解し、ご入居者の得意な事を活かした役割作りをしている。食べたい物の希望に沿えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外食の機会を設け、希望する食事ができるよう支援をしている。個人希望の外出・外食等を計画し、対応に努めている。	家族の協力のもと、毎週外出される方や2週間に1度自宅に行く方もいます。職員と一緒に、駅に来訪者の迎えに行く、市役所に書類提出に行く等、外出の機会を工夫しています。商店街の散歩も日課となっていますが、寒い時期はホーム内の廊下や階段で歩行訓練をして、機能維持に努め外出に備えています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ホームで金銭管理を行っている。買物の希望がある時は本人と共に掛け、金銭の出し入れは行って貰っている。必ず見守り支援をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望される方の要望に応じている。手作りの鼻中見舞いを出すなど、家族からは喜びの声も聞かれた。ホームにも個人宛で郵送されてきている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースでは、季節感を感じる装飾をしたり、入居者のホームでの様子の写真を貼ったりなど、環境づくりに努めている。	リビングや廊下には、利用者と職員と一緒に作った様々な作品が飾られ、季節を感じられるしつらえとなっています。また、行事の際の写真が飾られ、楽しそうな様子が伺えます。全体に掃除が行き届き、リビングには大きな濡れタオルで加湿対策がされ、快適な生活空間となっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	仲間同志の会話が持てるよう、居心地の良い場所の工夫をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内の安全の確保を行いながら、心地良く過ごせる場を常に提供している。見慣れた物、使い慣れた物は本人の安心となっている。	本人の歩行機能状態に合わせて、安全に配慮したベッドの位置や向き、手すりまで伝い歩きができる家具の配置に工夫されています。室内は個人ごとに、好きな本やソファ、テレビや家族の写真、両親のお位牌、手作り作品、さまざまな馴染みの物があり、居心地よく過ごせる居室作りがされています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個人の力を見ながら、ある力を引きだしながら自立した生活が維持できるよう声掛け、支援を行っている。			